

実体験を重視した 野外教育プログラムに関する研究 —東海道五十三次ウォーク 2008 の教育計画および実地踏査—

小 栗 俊 之*

Key Words: 東海道五十三次ウォーク 2008, 実地踏査, 教育計画

1. はじめに

大学行事として実施される東海道五十三次ウォークは、大学教育高度化推進特別経費の教育学習方法等改善支援経費として文部科学省より助成を受けている実践的教育研究プログラムである。特に、学生の実体験を重視した教育研究及び豊かな人間性を育成するための教育、建学の理念及び教育目標を達成する教育、独創的で顕著な成果をあげている特色ある教育研究として位置付けられ、課題名は「実体験を重視した野外教育プログラム」とされている。

2006年に東海道五十三次ウォーク 2006 が成功裡に終了し、2007年度は2008年度に実施予定の第6回目の東海道五十三次ウォークの準備年である。組織の確立、テーマ及びコンセプトの設定（目的）、行程内容の検討と吟味、実地踏査、下見、及び事務作業などが主な業務となる。

そこで、本稿では、東海道五十三次ウォーク 2008 の教育計画（目的・内容・計画・期待される成果）と2007年夏に行なわれた実地踏査結果から、次回の下見（2月実施予定）及び本番時における課題を分析・検討することを目的とする。

2. 東海道五十三次ウォークの教育学的位置付けと意義

東海道五十三次ウォークは教員・職員・学生の3者が協働して行う大学行事として位置付けられているが、教育学上はどのように位置付けられるのであろうか。

現在、文京学院大学には教育課程内（単位化されたもの）及び教育課程外において多様な実

* 人間学部保育学科

体験教育プログラムが遂行されている。例えば、教育課程内プログラムとして、「資格・免許に関わる実習」「異文化フィールドスタディーズ」「企業・NPO フィールドスタディーズ」「海外フィールドワーク」「社会貢献実習（学校インターンシップ）」などがある。一方、教育課程外実体験教育プログラムとして、学内行事として位置付けられているのものには、「新入生キャンプコーディネーター」「あやめ祭・文京祭」「オープンキャンパス」「ニューリーダー育成研修」及び「30km ウォーキング」「東海道五十三次ウォーク」がある。同じく教育課程外実体験教育プログラムとして、「子育て支援活動」「地域社会活動参加」「スチューデントサポーター参加」などの地域貢献活動も存在する。

このような視点から東海道五十三次ウォークを分析すると、本行事は、参加学生はもとより、実行委員として参画する学生の人間力を向上、育成を目的とする教育課程外活動といえる。言い換えれば、課外活動として位置付けられるといえるだろう。課外活動は学習者の諸活動のうち、教育課程内の活動として正規の位置付けはもたないが、教育上有効な活動の総称であるとされている。英語では“extra-curricular activities”と表記される。

上述の通り、大学における学生の教育活動は教育課程内の諸活動と教育課程外の諸活動により構成されており、これらの教育活動全体を視野に入れ、両活動の教育効果を相乗的に引き出す必要があると思われる。すなわち、教育課程内の諸活動と課外活動との連携を図りながら両活動共に積極的に実施することが学生の人間形成上有用である。そのためには、教育課程内の諸活動と課外活動との関連や区別を明らかにしておくことが重要となる。

東海道五十三次ウォークは、1994年から2001年までに実施された3回においては授業と同様の取り扱いがなされ、参加することによって「体育」科目の単位が付与されていた。教育課程内活動としての位置付けであった。しかし、学生実行委員会が実行経験を経たことにより独り歩きを始めた。組織も成長するということであろう。つまり、自分たちの力で企画運営がなされるようになり、学生主体のイベントとして成長を遂げてきたのである。それに伴い、企画内容、運営方法も学生実行委員の中から生まれてくるようになってきた。ついには、教育課程内活動から教育課程外活動として形態が変容したのである。

つまり、学生の自発的意思により単位を付与しない課外活動として生まれ変わったのである。この事例は、東海道学生実行委員会組織が成長し、集団活動を通じて自主的、実践的な態度が育成された珍しい事例であると思われる。言い換えれば、学生の学習過程における人間力の変容が目に見える形、成果として現れたものであるといえる。

これからの大学は1) 到達目標の明確化 2) 体系的・組織的な教育課程編成 3) 単位の実質化 4) 教育方法の改善 5) 質の保証・評価の充実など様々な対応が望まれることになるが、特に社会活動の基礎能力となるジェネリックスキル獲得のために東海道五十三次ウォークは重要な役割があると考えられる。

3. 事業の概要（計画期間全体）

課題である「実体験を重視した野外教育プログラム」は2年に1度開催される東海道五十三次ウォークと毎年5月に開催される30kmウォーキングを含んだ内容となっている。以下に、2008年度の事業計画を述べることにするが、先ず事業全体の計画を述べ、それを踏まえて、東海道五十三次ウォーク2008の事業計画を平成19年度教育・学習方法等改善支援経費—教育・学習方法等の改善計画書（申請書）に基づき述べていく。

事業計画の目的

現代的課題の重要な1つに青少年の自然体験不足が叫ばれて久しい。特に、現代社会においては歩くことが極めて減少し、生活習慣病の誘引のひとつにもなっている。そこで本実践的教育は、東海道五十三次ウォーク及び30kmウォーキングをキーワードとし、「歩行教育」をテーマとする実体験を重視した野外教育プログラムを提供することにより地域を学習し、本学の建学の精神である「自立と共生」の態度を養うことを目的とする。

東海道五十三次ウォーク2008の目的

人間が日常生活を営み身体活動を行う上で最も基本となるものが歩行である。しかし現代では歩くことが極めて減少し、生活習慣病の誘引のひとつにもなっている。そこで本実践は東海道をキーワードとし、実体験を重視した野外体験学習プログラムを提供することにより、健康の維持・体力の増進のみならず、地球環境問題に気づき、行動でき得る「自立と共生」の態度を養うことを目的とする。

事業計画の内容

本教育プログラムの内容は「旧東海道」および「川越街道」の街道を歩く「歩行教育」である。しかしながら、感動や喜び達成感を喚起する情緒的な面を提供するだけの自然体験活動の提供に留まるものではなく、そこに何が起こっていたのか、何故そうなったのか、これからどうしていけばよいのか、といったプロセスに注目し、学びや日常への変換を図る野外体験学習法を取り入れ、学習効果を高める工夫をした内容である。

東海道五十三次ウォーク2008の内容

東海道五十三次ウォーク2008は、三重県/桑名宿から京都/三条大橋までの13の宿場を歩行する。今回のプログラムは体験だけの提供にとどまるのではなく、「そこに何が起こっていたのか」「何故、そうなったのか」「これからどうしていけば良いのか」というプロセスに注目し“学び”や“日常への変換”を図る野外体験学習法を取り入れたウォーキング教育、野外教

育及び環境教育を融合したものとしたい。

事業計画

東海道五十三次ウォークは2年に1度の実施となるが、本番前年度は2回の下見と実踏調査、歩行ルートの設定、研修訪問場所の選定など準備期間となり翌年の本番を迎える。実施は8月下旬の約1週間を期間とする。30kmウォーキングは毎年5月下旬に実施。教職員と学生会が協働し準備、実施となる。行程は東京・本郷校舎から埼玉・ふじみ野校舎までの30km。ポイントスタッフの配置、救護車の配備で安全対策を整える。

東海道五十三次ウォーク 2008 の計画

2007年度は、8月及び2月の2回の下見、実踏調査を実施。調査内容はルートの確認、宿泊施設の吟味、休憩場所の設定、昼食場所と内容検討、地場産業・施設・史跡名所など、研修訪問場所の選定を行う。同時に事務作業として、参加者募集の検討、旅行社との交渉、広報活動、下見・実踏調査の会計処理と本番時に向けた会計予算作成、内容検討等となる。2008年8月を本番実施期間とし、2009年は実施後のまとめと次回への準備となる。

事業計画によって期待される成果等

本教育プログラムは、非日常性を一つの教育環境として効果的に取り上げ、かつ冒険的な要素も取り入れるため、学生の身体的な変化だけではなく精神的な変化も期待できる。具体的には、リーダーシップ、成功体験、ストレス、不慣れな環境、状況判断、グループダイナミクス、コミュニケーションスキル、問題解決能力などである。自然環境を教材とした体験学習を施すことにより、上記のような成果が期待できると思われる。

東海道五十三次ウォーク 2008 の期待される成果等

野外教育と環境教育を融合した本実践的教育研究は、日常的学习環境である講義室などにおける一方的な知識伝達とは異なる環境での体験を通して、態度変容及び問題解決能力などの学習効果が期待できる。また、自分の足で歩き、地域の方々と触れ合い励ましあう実体験は、本学の「自立と共生」という理念を再認識するまたとない機会となる。加えて、教職員と共に、本プログラムを運営実行する学生実行委員のリーダーシップ養成には成果が期待できる。

1年目の事業計画

第16回30kmウォーキングを実施。5月下旬の土曜日に実施。参加者100名程度。行程は東京・本郷校舎から埼玉・ふじみ野校舎まで。教職員と学生会との協働事業。東海道五十三次ウォークは、1年目は準備期間となる。具体的作業として、2月及び8月の2回の下見と実踏調査、教職員と学生実行委員会組織の設立、テーマ・コンセプトの設定、歩行区間・日程・時

期・訪問先の決定，広報活動，参加者募集，マニュアル作成等．

東海道五十三次ウォーク 2008 の 1 年目

2007 年は準備期間．2008 年 8 月下旬の本開催に向けての実踏調査が実施される．実踏調査は，8 月と 2 月の 2 回を予定している．そのための教職員及び学生の組織作りが必要となる．教育的効果を高めるためにテーマ及びコンセプトを設定し，内容充実を図る．具体的作業として，運営組織の確立，歩行区間，日程，期間，訪問先の決定，広報活動，参加者募集，会計予算作成と処理，タイムテーブル及び参加者マニュアルの作成等である．

2 年目の事業計画

2008 年度に東海道五十三次ウォーク 2008 を開催．下見及び実踏調査の結果に基づき，参加者用マニュアル及び教職員・学生実行委員タイムテーブルを作成．5 月初旬から参加者募集を行い，6 月末までに決定する．その後，参加費納入となる．参加者決定説明会を開催し本番へ備える．実行委員会は広報，渉外，会計業務．8 月下旬に本番実施．第 17 回 30km ウォーキング実施（5 月下旬，参加者 100 名程度）．

東海道五十三次ウォーク 2008 の 2 年目

2008 年度に東海道五十三次ウォーク 2008 を開催する．下見・実踏調査の結果に基づき，参加者用マニュアル及び教職員・学生実行委員タイムテーブルを作成する．同時に，事故怪我などの安全対策と自然災害等による危機管理対策を徹底する．5 月初旬から参加者募集を行い，6 月末までに決定する．その後，参加費納入となる．参加者決定後説明会を開催し本番へ備える．実行委員会は広報，渉外，会計業務．8 月下旬に本番実施．

3 年目の事業計画

東海道五十三次ウォーク 2008 の総括．参加者アンケート分析と検討．教職員及び学生実行委員会は定期的に開催し，まとめと反省を実施．次回の課題と方向性を検討する．その他，訪問先・研修先等への礼状送付，協賛企業・スポンサーへの報告とお礼，記念誌及びホームページの作成による活動報告など．第 18 回 30km ウォーキング実施（5 月下旬，参加者 100 名程度）．

東海道五十三次ウォーク 2008 の 3 年目

東海道五十三次ウォーク 2008 の総括．参加者アンケート分析と検討．教職員及び学生実行委員会は定期的に開催し，まとめと反省を実施．次回の課題と方向性を検討する．その他，訪問先・研修先等への礼状送付，協賛企業・スポンサーへの報告とお礼．記念誌及びホームページの作成による活動報告．なお，本実践的教育研究は継続的研究として実施される予定．その

ため、次の開催方法、内容の検討、新体制作りが必要となる。

建学の理念と申請課題及び東海道五十三次ウォーク 2008 との関連

「自立の第1歩は、まず自分の足で歩くことから始まる。」これは本大学島田学長の言葉である。

人間が自立し、人生の目標に向かって歩んでいくためには、自己を成長に導くための鍛錬が必要となる。鍛錬するとき、人はたくさんの時間をかけて努力を積み重ねる。何故なら、簡単には叶わない大きな希望がそこにあるからだ。望みを叶えるためには、慌てず、焦らず、腰を据えてじっくりと一步一步踏みしめることが大切となる。ここに人間の自立が存在する。そして、苦しみに耐える強さ、物事を多角的に見られる視野の広さ、柔軟性、多様性は長い人生の道のりにおいて必要な力の源であり、人間だからこそ持てる力であり、また社会を築く上で、不可欠なものである。現在の便利さが当たり前になってしまった時代に生まれた学生たちには、自分たちが築いてきたものは何かを見つめ直し、視野の広さについて自問自答する必要がある。その上で、新しい物事のみならず、古い事柄も学ぶ機会が必要となることを理解する。

本実践的教育プログラムは「東海道五十三次ウォーク」と「30km ウォーキング」を取り上げ、歩く共同体験による五感を通じた原体験と学習によって生きる力を培い、自立と共生を肌で感じる野外体験学習を建学の理念を具現化する一つ的手段として提供する。

4. 組織

顧問・スタッフ（教職員実行委員）

平成19年7月25日に島田燐子学長より、東海道五十三次ウォーク2008における教職員スタッフの委任状が公表された。教職員は委員会の形態を執らず、顧問（教員）、サポートスタッフ（職員）という立場の構成となっている。顧問は各学部（含：短期大学）から各1名ずつ選出され、サポートスタッフは毎回多少の入れ替えはあるが、各事務部署から選ばれる。今回は顧問4名、スタッフ10名、計14名が任命された。大学のみならず、学園全体でこの実践的教育プログラム（行事）を支えていく体制が伺える。以下に具体的なメンバーを紹介することにする。

選出の背景（学長言）

「本学ならではの『東海道五十三次ウォーク』は、学生が中心となって企画する隔年行事であり、今回は2008年の夏季を予定しております。

従来から、実施前年度に、各学部の教職員の中から、顧問及びスタッフを任命し、学校をあげて学生主体のイベントを支援しております。今回は下記の教職員にお願いしております。顧問・スタッフになられた方は、なにとぞよろしくお願いいたします。」

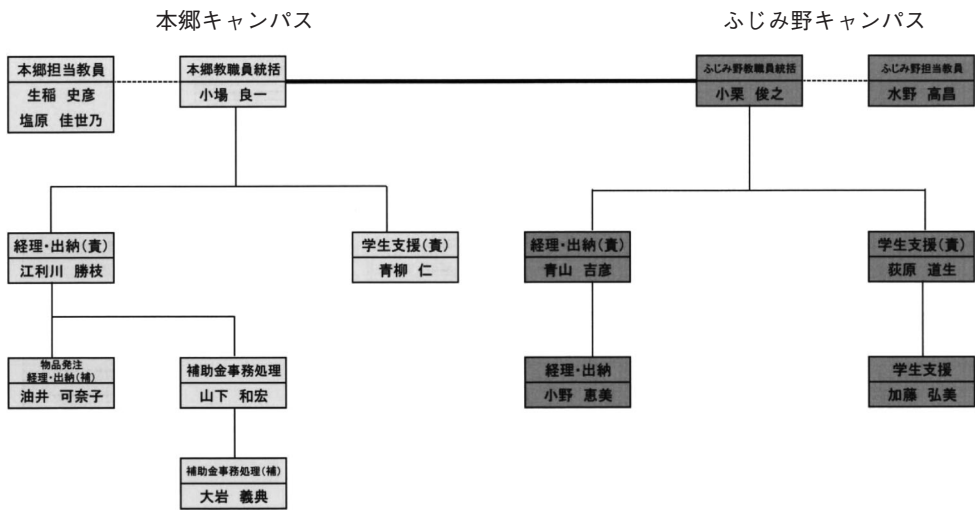
記

顧問・スタッフ一覧 (敬称略)

統括顧問	小栗 俊之	人間学部	(ふじみ野)	
顧問	生稲 史彦	経営学部	(本郷)	
顧問	塩原佳世乃	外国学部・短期大学	(本郷)	
顧問	水野 高昌	保健医療技術学部	(ふじみ野)	
スタッフ	小場 良一	学生支援センター	(本郷)	学生指導責任者
	江利川勝枝	学生支援センター	(本郷)	経理・出納責任者
	油井可奈子	学生支援センター	(本郷)	
	山下 和宏	学生支援センター	(本郷)	補助金事務処理担当
	青柳 仁	キャリアセンター	(本郷)	
	大岩 義典	学習支援センター	(本郷)	
	青山 吉彦	入試広報センター	(ふじみ野)	
	荻原 道生	学習支援センター	(ふじみ野)	
	加藤 弘美	キャリアセンター	(ふじみ野)	
	小野 恵美	学生支援センター	(ふじみ野)	

以上 14 名

図 1 東海道五十三次ウォーク2008 教職員実行体制（案）



平成 19 年 9 月 25 日 作成者：本郷キャンパス 小場 良一

学生実行委員会委員

2007年9月25日現在、学生実行委員は計15名である。内訳は、ふじみ野校舎が8名（共生社会学科5名：2年生2名・1年生3名、心理学科1年生3名）、本郷校舎が計7名（全て外国語学部：3年生4名・2年生3名）となっている。本郷校舎及びふじみ野校舎の両キャンパス運営になってから3回目となるが、大学・短期大学の全学的な行事にしていくためにも各学部から学生実行委員が名を連ねることが望ましいと思われるが現在は以下の通りである。4年生は補佐の役割を担い、前回までの経験を生かしサポートを行う。

学生実行委員長 柳川洋介 外国語学部 英語コミュニケーション学科3年

副委員長 洲上智世 外国語学部 英語コミュニケーション学科3年

ふじみ野校舎学生実行委員

- | | | | |
|----|-------|------|---------------------|
| 1年 | 青木理恵 | 人間学部 | 共生社会学科（記録部門） |
| | 大村今日子 | 人間学部 | 共生社会学科（記録部門） |
| | 対馬絵美 | 人間学部 | 共生社会学科（総務部門） |
| | 鹿目夏美 | 人間学部 | 心理学科（企画部門） |
| | 堀内麻里絵 | 人間学部 | 心理学科（企画部門） |
| | 宮明浩太郎 | 人間学部 | 心理学科（記録部門） |
| 2年 | 北村洋一 | 人間学部 | 共生社会学科（企画部門・ふじみ野代表） |
| | 和田陽一 | 人間学部 | 共生社会学科（総務部門） |

本郷校舎学生実行委員

- | | | | |
|----|------|-------|--------------------------|
| 2年 | 元木彩加 | 外国語学部 | 英語コミュニケーション学科（記録部門・本郷代表） |
| | 野口里奈 | 外国語学部 | 英語コミュニケーション学科（広報部門） |
| | 本間言乃 | 外国語学部 | 英語コミュニケーション学科（記録部門） |
| 3年 | 柳川洋介 | 外国語学部 | 英語コミュニケーション学科（学生実行委員長） |
| | 洲上智世 | 外国語学部 | 英語コミュニケーション学科（学生副実行委員長） |
| | 水野秀晃 | 外国語学部 | 英語コミュニケーション学科（総務部門） |
| | 坪勇治 | 外国語学部 | 英語コミュニケーション学科（企画部門） |

計15名

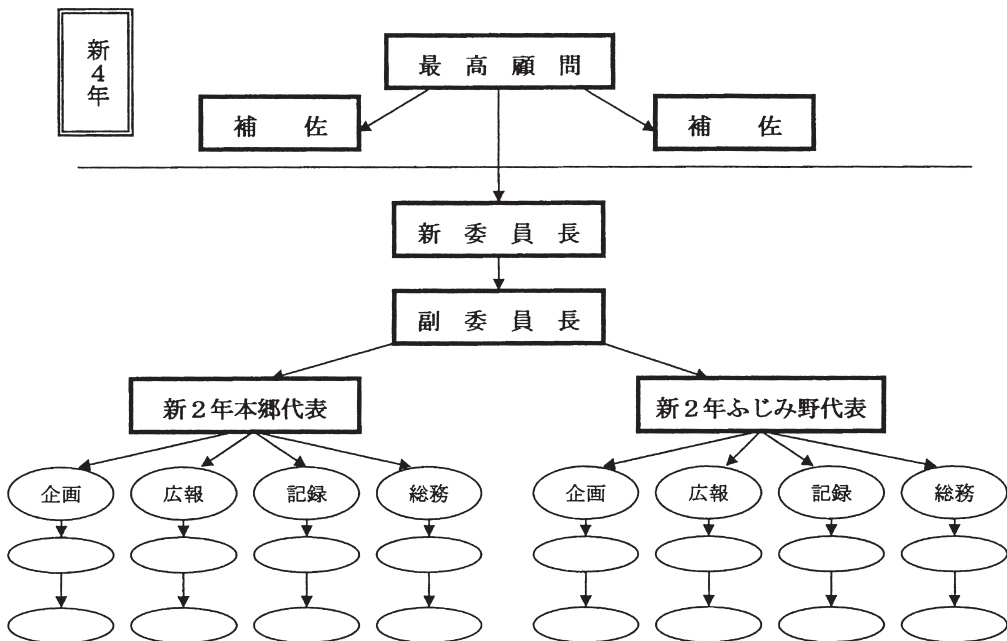
サポート学生

- | | | | |
|----|-------|------|--------|
| 4年 | 宮川 幸 | 人間学部 | 共生社会学科 |
| | 藤原わかな | 人間学部 | 共生社会学科 |
| | 日置 枝里 | 人間学部 | 共生社会学科 |

佐藤真理子 人間学部 共生社会学科
 林 友美 人間学部 共生社会学科
 根本 香織 人間学部 共生社会学科
 岡部 明子 人間学部 人間福祉学科
 小山明日香 人間学部 人間福祉学科
 並木紗穂莉 人間学部 人間福祉学科
 齋藤 有美 外国語学部 英語コミュニケーション学科
 平井 美希 外国語学部 英語コミュニケーション学科

計 11 名

図 2 東海道五十三次ウォーク2008実行委員会 新体制案



- ◎ 最高顧問には前委員長、補佐には新4年が就く。
- ゝ 新委員長、新副委員長の任命は、任意の元に最高顧問が行う。
- ◎ 両キャンパスに新2年の代表を一人置き、また各部門の幹部も置く。
- ◎ 今後、東海道五十三次ウォーク実行委員会では上記に則り引継ぎを行うものとする。

5. 2007 年度夏一下見・実地踏査報告一

第1回目の下見が8月26日(日)～29日(水)の4日間実施された。下見は実地踏査とも言われ、必ず実施しなければならないものである。本番実施時における参加者の目線を意識し、

できればスタッフ全員で、特に、危険箇所のチェックを行う必要があるものとされている。本下見（第1回目）に関しては、来年度夏に行われる東海道五十三次ウォーク 2008 のルート、見所、史跡・名称など各種情報収集をするために実施された。

以下に、目的、概要、下見スケジュール、訪問先、コース実踏場所、下見備品、下見までの事務作業の7項目について報告する。

【目的】

本下見の主目的は、次の通りである。

1. 桑名宿から京都・三条大橋までのルートの確認。

原則的には旧東海道を歩行ルートと設定するが、安全面等が確保されない場合はこの限りではない。

①各宿間及び各スポット（名所旧跡・休憩場所等）までの歩行距離の確認。

②ルート内、休憩場所及びトイレの確認。

③ルート内、昼食場所の確認（昼食手配の確認）。

④ルート内、伴走車の走行ルートの確認

2. ルート内、宿泊施設の確認・下見。

3. ルート内、見学場所等の確認・下見。

4. 上記、情報収集のための「行政」または「関連団体」への訪問。

以上の情報収集を下見の主目的とし、実施する。

【概要】

1. 下見期間 平成 19 年 8 月 26 日(日)～29 日(水)

2. 下見場所 三重・桑名宿～京都・三条大橋

（桑名宿、四日市宿、石薬師宿、庄野宿、亀山宿、関宿、坂下宿、土山宿、水口宿、石部宿、草津宿、大津宿、京都・三条大橋）

3. 下見参加者 教職員：小場、小栗、塩原、福島、青山、大岩、荻原、加藤、青柳
以上 9 名

学生実行委員：宮川、藤原、岡部、柳川、水野、北村、元木、本間、野口、和田、
宮明、堀内 以上 12 名

4. 使用車両 レンタカー 2 台（桑名にて借用、京都にて返却）

5. 下見予算（案）1,350,000 円

- 1) 交通費関連 591,000 円

①燃料（ガソリン）代 9,000 円

150 km ÷ 5 km(l) × 150 円(l) × 2 台 9,000

②新幹線等交通費 582,000 円

・ 東京→桑名	@12,000 * 12	144,000
・ 東京→三雲	@15,000 * 9	135,000
・ 三雲→東京	@15,000 * 9	135,000
・ 京都→東京	@14,000 * 12	168,000

2) 宿泊費 430,000 円

・ 亀山 (リビングホテル亀山(8/26))	@10,000 * 12	120,000
・ 水口 (ホテルサンクレスト甲西(8/27))	@10,000 * 19	190,000
・ 草津 (ホテルボストンプラザ草津(8/28))	@10,000 * 12	120,000

3) レンタカー代 (4 日間) 214,000 円

・ レンタカー代	$30,000 + (21,000 * 3) * 2$	186,000
・ 乗り捨て料金	$14,000 * 2$	28,000

4) 予備費 115,000 円

※参加者保険, 駐車料金, 資料館等の拝観料・見学科, 文具・消耗品 etc.

第 1 回下見決算

(2007・9.25 東海道五十三次ウォーク 2008 教職員顧問・スタッフ会議より)

各経費内訳

1) 第一回下見予算 1, 318, 013 円

①交通費関連 563, 138 円

a) 燃料 (ガソリン) 代 14, 968 円

・ $150 \text{ km} \div 5 \text{ km} / (1) * 150 \text{ 円} / (1) * 2 \text{ 台}$

b) 高速道路・有料道路料金 3, 050 円

c) 新幹線等交通費 542, 960 円

・ 東京→名古屋 @10,980 * 2 名

・ 東京→桑名 @11,190 * 7 名

・ 東京→桑名 (学割利用) @9,930 * 3 名

・ 東京→草津 @14,040 * 2 名

・ 東京→草津 (学割利用) @12,690 * 8 名

・ 亀山→東京 @11,720 * 1 名

・ 三雲→東京 @14,290 * 3 名

・ 三雲→東京 (学割利用) @12,690 * 4 名

・ 京都→東京 @13,720 * 5 名

・ 京都→東京 (学割利用) @12,120 * 9 名

・ その他乗車券代 2,250

d) タクシー代 2, 160 円

②宿泊費 324, 840 円

・ 亀山 (リビングホテル亀山(8/26)) 84,930

・ 水口 (ホテルサンクレスト甲西(8/27)) 186,000

・ 草津 (ホテルボストンプラザ草津(8/28)) 138,840

③レンタカー代（4日間）	149,920円
・レンタカー代 $(21,500 + (15,500 * 2) + 11,120) * 2$ 台	
・乗り捨て料金 $11,340 * 2$ 台	
④下見参加者保険	10,450円
・国内旅行傷害保険 @475 * 22 名	
⑤教職員出張手当	72,500円
・4日間 @2,500 * 4 * 3 名	
・3日間 @2,500 * 3 * 5 名	
・2日間 @2,500 * 2 * 1 名	
⑥食事代	174,950円
・朝食代 $(@1,000 * 2 日 * 19 名) + (@1,000 * 3 日 * 3 名)$	
・昼食代 $(@1,000 * 2 日 * 9 名) + (@1,000 * 2 日 * 10 名) + (@1,000 * 3 日 * 3 名)$	
・昼食試食代 @950 * 11 名	
・夕食代 $(@1,500 * 2 日 * 19 名) + (@1,500 * 3 日 * 3 名)$	
⑦駐車料金	1,900円
⑧拝観料	8,150円
⑨書籍代	1,960円
⑩その他雑費	10,205円
a) 紙コップ	210円
b) 宅配便	5,510円
c) コピー代	1,880円
d) 氷・飲み物代	2,035円
e) デジカメ電池代	570円

【下見スケジュール】

下見は、第一グループと第二グループに分けて実施された。グループ内には、一号車班と二号車班に分乗。一号車班は、主にルートの確認・休憩スポット・歩行距離など歩行に関する作業、二号車班は見学場所・行政への資料収集・宿泊施設との交渉を受け持った。

【第一グループ】

- ・参加者 教職員 …小栗，小場，塩原，福島，大岩(8/27 朝帰宅)，加藤，青柳
学生実行委員…藤原，岡部，水野，北村（8/27 下見終了後帰宅），元木
- ・日程 平成 19 年 8 月 26 日（日）～ 8 月 28 日（火）
- ・下見場所 桑名宿～四日市宿～石薬師宿～庄野宿～亀山宿～関宿～坂下宿～土山宿～水口宿
 $< 8 / 26（日）：桑名宿～四日市宿～石薬師宿～庄野宿～亀山宿 >$
 - 7:00 JR 神田駅山手線外回りホーム進行方向一番前（東京寄り）集合）
 - 7:33 東京出発（「のぞみ 61 号」）
 - 9:15 名古屋到着

- 9:30 名古屋出発 (JR「快速みえ1号」)
- 9:48 JR 桑名駅到着
- 10:00 レンタカー借用
- 10:15 ~ 10:45 オープニングセレモニー会場「七里の渡し」見学
- 10:45 ~ ルート確認, 訪問候補先交渉
(名所旧跡スポット:「春日神社」「火の見櫓」「安永の常夜灯」「笹井屋 (なが餅)」「日永の追分」「杖衝坂 (芭蕉句碑)」「小澤本陣跡」「佐々木信綱記念館 (歌人:『夏はきぬ』など)」「石薬師一里塚」「和田一里塚」「亀山城」「亀山口ウソク」「野村一里塚」「小萬のもたれ松」「関宿の古い町並み」「関の山車」「銘菓・関の戸」)
- 18:00 「リビングホテル亀山」到着
- 19:00 ~ 20:00 夕食
- 20:00 ~ 21:30 ミーティング (翌日のスケジュール確認)

< 8 / 27 (月) : 亀山宿~関宿~坂下宿~土山宿~水口宿~ JR 三雲駅 >

- 8:30 大岩「リビングホテル亀山」出発
- 9:04 大岩・JR 亀山駅出発
(名古屋発 10:21「のぞみ126号」東京着 12:00)
- 9:00 「リビングホテル亀山」出発
- 9:00 ~ ルート確認, 訪問候補先交渉
(名所旧跡スポット:「亀山城」「亀山口ウソク」「野村一里塚」「小萬のもたれ松」「関宿の古い町並み」「関の山車」「銘菓・関の戸」「シヤーズ亀山工場 (液晶テレビ)」「鈴鹿馬子唄会館」「片山神社」「鈴鹿峠」「田村神社」「土山茶」「高札場」「水口城址」「泉一里塚」「横田常夜灯」)
- 16:30 第二グループと合流 (JR 三雲駅前)
- 16:43 JR 三雲駅出発
(北村のみ帰宅: 京都発 17:46「のぞみ36号」東京 20:06 到着予定)
- 17:00 「ホテルサンクレスト甲西」到着
- 18:00 ~ 19:00 夕食
- 20:00 ~ 22:00 第二グループとの合同ミーティング
(引継ぎおよび翌日のスケジュール確認)

< 8 / 28 (火) >

- 9:00 「ホテルサンクレスト甲西」出発
- 9:15 三雲駅到着

9:24 三雲駅出発（京都発 10:26「のぞみ 70 号」東京 12:46 到着予定）
12:46 東京駅到着・解散

[第二グループ]

・参加者 教職員 …小栗，青山，福島，荻原，青柳（※小栗，福島，青柳の 3 名は，
第一グループからそのまま移行）

学生実行委員…宮川，柳川，本間，野口，和田，宮明，堀内

・日程 平成 19 年 8 月 27 日（月）～ 8 月 29 日（水）

・下見場所 JR 三雲駅～石部宿～草津宿～大津宿～京都・三条大橋

< 8 / 27（月） >

12:30 JR 神田駅山手線外回りホーム進行方向一番前（東京寄り）集合
12:50 東京駅出発（「のぞみ 29 号」）
15:11 京都到着
15:30 京都出発（JR 東海道線新快速）
15:48 草津到着
15:56 草津出発（JR 草津線）
16:17 JR 三雲駅到着
16:30 第一グループと合流（JR 三雲駅前）
17:00 「ホテルサンクレスト甲西」到着
18:00 ～ 19:00 夕食
20:00 ～ 22:00 第一グループとの合同ミーティング
(引継ぎおよび翌日のスケジュール確認)

< 8 / 28（火）：JR 三雲駅～石部宿～草津宿～大津宿 >

9:30 「ホテルサンクレスト甲西」出発
9:30 ～ ルート確認（名所旧跡スポット：「水口城址」「天井川」「北島酒造
（地酒「柳川）」」「いしべ宿駅驛（無料休憩施設）」「旧和中散本舗
（昔の薬屋）」「銘菓・姥が餅」「草津追分（東海道と中山道）」「草津
本陣」「立木神社」「矢橋道標」「瀬田の唐橋」「義仲寺（〔木曾義仲〕
〔松尾芭蕉〕の墓）」「蟬丸神社（蟬丸（百人一首の 10 番目）：これ
やこの行くも帰るも別れつつしるもしらぬもあふさかの関）」「逢坂
の関（古代の三関所の一つ）」「かねよ（創業以来百三十五年の老舗）
の『きんし井』」「平安神宮」
18:40 「ホテルボストンプラザ草津」到着
19:30 ～ 20:30 夕食
20:30 ～ 21:30 ミーティング（翌日のスケジュール確認）

< 8 / 29 (水) : 大津宿～京都・三条大橋 >

8:30	「ホテルボストンプラザ草津」出発
9:30 ～	ルート確認 (名所旧跡スポット: 「蹴上」「平安神宮」「高山彦九郎像」「三条大橋」閉会式会場 (三条大橋・鴨川川岸) 確認)
14:00	京都駅到着 (レンタカー返却)
15:09	京都出発 (「のぞみ 26 号」)
17:30	東京到着
17:40	東京駅新幹線改札口にて解散

【訪問先】

1. 桑名宿

- ・ 桑名観光協会 (桑名観光案内所: サンファーレ北館 2 階・木曜定休…マップ, 桑名市歴史の案内人等)
- ・ 桑名宿泊場所 (桑名シティホテル)

2. 四日市宿

- ・ 四日市観光協会 (四日市物産観光ホール内・火曜定休: 散策マップ「東海道編」)

3. 石薬師宿・庄野宿

- ・ 鈴鹿市観光協会 (白子駅前 17-12)
- ・ 鈴鹿市内ホテル (石薬師宿・庄野宿スタート・ゴール時の宿泊: 近鉄平田町駅付近)
- ・ 小澤本陣跡 (小澤家)
- ・ 庄野宿資料館

4. 亀山宿・関宿・坂下宿

- ・ 亀山ローソク (工場見学)
- ・ 亀山城址
- ・ 亀山市役所
- ・ 亀山観光協会 (亀山市関町)
- ・ シャープ亀山工場 (工場見学: 予約必要)
- ・ 鈴鹿馬子唄会館

5. 土山宿

- ・ 土山町役場

6. 水口宿

- ・ 水口観光協会 (みなくちお散歩マップ)

7. 石部宿

- ・ 東海道石部宿歴史民俗資料館

8. 草津宿

- ・ 旧和中散本舗
- ・ 天井川
- ・ 草津本陣
- ・ 草津宿街道交流館（東海歴史マップ）

9. 大津宿

- ・ 大津観光案内所（大津駅 1 階）

【コース実踏場所】

1. 桑名宿内（七里の渡し～報恩寺）
2. 四日市宿（近鉄四日市付近：諏訪神社～商店街）
3. 石薬師一里塚付近
4. 坂下宿（岩屋十一面観世音菩薩碑～片山神社～鈴鹿峠～万人講常夜灯付近）
5. 土山宿（田村神社付近）
6. 水口宿（水口石橋商店街付近）
7. 大津宿（市内）
8. その他

【下見備品】

1. デジカメ
2. 資料（地図等），各チェック表等
3. トランシーバー
4. 携帯電話
5. ビデオカメラ，テープ
6. 大学パンフレット，封筒
7. 筆記用具，蛍光ペン
8. クーラーボックス

【下見までの事務作業】

1. 旅行代理店への手配（宿泊施設への予約，新幹線等のチケット）
2. 旅行保険の加入
3. 下見マニュアル（訪問先リスト・見学先リスト）
4. 参加者の確認（人数等）
5. レンタカーの手配

6. 次回下見及び本番に向けての課題と方向性

課題

多少の変更はあったにせよ、ほぼタイムスケジュールどおりに下見は遂行された。今回の下見は、行程を決定するための情報収集が主な作業であったが、旧東海道のルート確認、各関係部署への挨拶と資料収集、史跡・名称及び見所の確認と交渉など、当初の目的は達成されたと思われる。

しかしながら、今回の下見によって新たに挙がった課題と問題点もある。具体的には、行程のスタートポイントとゴールポイント（何区間に設定するか）、最終ゴール地点（京都・三条大橋の使用許可の件：一定の条件をクリアしなければ使用不可）、見所・研修場所の再検討（シャープ亀山工場の企業見学の件）、歩行終了時刻とそれに伴う歩行距離（参加者の帰省を考えた場合の各区間の終了時刻）、歩行困難箇所の代替案（鈴鹿峠）、雨天の場合の他ルートの設定、宿泊施設の決定、休憩場所、昼食の手配、危険場所の確認などである。

挙がった問題点と課題を解決の方向に進むよう努力しながら、収集した材料（情報と資料）をどのように料理していくかが次回の下見までの課題となる。次回、今年度2月予定の下見が最終の下見となるため、本番同様の実地作業が必要となる。

方向性 ー安全対策及び危機管理対策の重要性ー

上述の通り、第1回目の下見における目的は、行程を決定するための情報収集、旧東海道のルート確認、各関係部署への挨拶と資料収集、史跡・名称及び見所の確認と交渉などであった。行程を確認し内容を充実させるべく情報を収集することも下見で行うべきことである。しかし、一般参加者を誘導しながら一定距離を踏破する東海道五十三次ウォークの実地踏査、いわゆる下見の最大の目的は安全対策及び危機管理対策を講じるための現場を実地、観察することも忘れてはならないだろう。

特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会が著した『自然体験活動指導者 安全管理ハンドブック』によると、指導者がいる自然体験活動で事故が発生した場合は、おもに民法709条により「指導者の過失を原因とする不法行為」として、責任が問われる場合がある。法律の内容は、「故意又は過失によって他人の権利又は法律上保護される利益を侵害した者は、これによって生じた損害を賠償する責任を負う。」としている。

それを受けて、過去の裁判では、指導者の注意義務として「結果予見義務」と「結果回避義務」がおもに問題にされていると警鐘を鳴らしている。すなわち、危険を予見する義務をどれだけ果たしていたか、危険を回避する義務をどれだけ果たしていたかの2点である。具体的な争点としては、実地踏査の有無、気象状況の把握、安全な場所の選定、監視と救助の体制、天候の変化に伴う中止または変更などがポイントとなっているようである。

安全確保の方法としては、2つのアプローチが考えられており、1つは、危険を回避して安全を確保する考え方で、「関わらない安全」である。もう1つは、対処可能な範囲で危険と関わり、繰り返しの中で対処法や知識・技術・経験を身につけていく「関わる安全」であるとしている。

後者は安全教育そのものであり、自然体験活動の醍醐味や教育的効果を期待することにもなるが、実際の活動場面では、「関わらない安全」と「関わる安全」のどちらが良いかについて優劣はつけられない。いずれを選ぶにせよ、結果として安全が確保できることを大前提として、時と場合によって柔軟な選択をするべきであるとされている。参加者にとっては、不確実性を感じる状況であっても、指導者の目から見れば、100%に近い成功率を確保できることが大切であることを指摘している。

そこで企画者側は何が出来るのか、そして何をしなければいけないのだろうか。顧問・スタッフ及び学生実行委員は、これまでの判例などの情報を収集して学習するとともに、リスクマネジメントや救急法の講習会などに積極的に参加するなど、指導者の安全に関する管理能力の向上に努めていく必要があると思われる。言い換えれば、事故・怪我なく、しかも教育的効果を高めながら東海道五十三次ウォーク 2008 を推進するためには、顧問・スタッフに加え、学生実行委員が自らの安全管理能力を高めることが、先ず第1に求められるのである。

CONE 地域子ども教室推進事業運営協議会の指導者部会委員長佐藤初雄氏によれば、「安全に関しては、これだけやれば絶対安全ということはない」と指摘し、「対象は、人であり、その舞台は自然です。刻一刻と変化する状況でいつもと同じということはない。そういう状況の中で、安全に活動するためには、指導者は常に研鑽し、臨機応変に対応できるように努めなければならない。」としている。つい、慣れや油断や慢心などから、「知っているけどやらない」「やればできるけどやらない」「まあ、いいか」「前回も同じように行って事故がなかったから」「となりの団体がやっていて自分たちもできそうだから」ということのないよう十分な対応が必要である、と下見の重要性を指摘している。

7. おわりに

体験だけの提供を行ってきた野外教育活動は、感動や喜び、達成感など情緒的な面の喚起を行うことは出来たかもしれない。しかし、そこに何が起こっていたのか、何故そうだったのか、これからどうしていけばよいのか、といったプロセスに注目し学びや日常生活への変換を図るのが野外体験学習法の指導法である。

13年の歳月を経て、第6回目の東海道五十三次ウォークが開催されようとしている。この大学行事のこれからの役割は、参加者にただ単に参加しただけの“体験”に留まらせるのではなく、各々が、この体験を経験知として変換していけるよう動機付けをする役割があると思われる。すなわち、東海道五十三次ウォーク 2008 は、身体的負荷を伴うだけに感動や喜び、達

成感など情緒的な面の喚起を促しやすいものではあるが、それに加え、活動そのものが持つ教育的効果（五感を通した歩く共同体験、史跡や名称などに触れ、そこに暮らす地域の方々との会話があり、一緒に歩いた仲間と信の関係を築く）をうまく利用し、振り返りを行いながら、日常生活に生かしていけるよう工夫をすることが必要である。

また、「体験の質は、不当に危険にさらされた程度に比例して、ひどいものとなる。」という指摘があるように、安全面への配慮や準備が不足していると、本来の目的を達成できないばかりか、参加者に多大な迷惑や負担をかけ、指導者やスタッフ、ひいては組織や団体の存続までもが危うくなるような事態を招きかねないことにもなる。したがって、行事の企画、運営者に不可欠な三つの注意義務

＜危険予知義務・危険回避義務・危険防止義務＞

を十分に検討する必要性がある。

引用・参考文献

1. 編 CONE 地域子ども教室推進事業 運営協議会 特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会『自然体験活動指導者 安全管理ハンドブック』CONE 地域子ども教室推進事業運営協議会，2007年3月。
2. 大学教育高度化推進特別経費 平成 19 年度教育・学習方法等改善支援経費—教育・学習方法等の改善計画書
3. 日本特別活動学会編『キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社，2000 年
4. 東海道五十三次ウォーク 2008 実行委員会 会議資料 平成 19 年 7 月 30 日
5. 東海道五十三次ウォーク 2008 実行委員会 会議資料 平成 19 年 8 月 10 日
6. 東海道五十三次ウォーク 2008 実行委員会 会議資料 平成 19 年 8 月 16 日
7. 東海道五十三次ウォーク 2008 実行委員会 会議資料 平成 19 年 8 月 21 日
8. 東海道五十三次ウォーク 2008 実行委員会 会議資料 平成 19 年 8 月 26 日
9. 東海道五十三次ウォーク 2008 実行委員会 会議資料 平成 19 年 9 月 11 日
10. 東海道五十三次ウォーク 2008 教職員顧問・スタッフ会議資料 平成 19 年 9 月 25 日
11. <http://www.o-ec.co.jp/cycle.htm> 野外体験学習法

(2007.12.12 受理)